

第3回定期総会報告 事業報告と活動計画など全議案を原案通り承認

会員の輪を広げ、様々な企画の実現を目指した活動をスタート

4月24日(土)、第3回総会が中央図書館で開催されました。

朝野会長の挨拶、総会の成立が確認された後、議長を選出し、総務委員会(役員会などの案内や議事内容・資料のとりまとめや通知・会員名簿などの管理)、事業委員会(昨年10月のオープニングイベントや「友の会ウィーク」の企画・運営や情報スクラップブックの作成、ナイトシアターなどを開催)、広報委員会(年4回の「友の会通信」などを発行)による平成21年度の事業報告、そして収支報告及び会計監査の議題が原案通り、拍手で承認されました。

またこれまでの活動を補い、今後の活動に合わせる会則の改定が提案され、承認されました。

新しい委員会が誕生、『読書会』やハガキ“定期便”も開始

更にこれまでのチームによる事業委員会の活動を明確にし、イベント、スクラップブック「葛飾ニュース情報」作成、地域・地区図書館応援、ナイトシアター、児童・YAサービス応援の5つの委員会を新たに発足させ、参加メンバーを増やし、積極的に活動を進めていくとの提案が行われ、承認されました。

今回の総会は任期2年の役員改選時期に当たり、役員会から新しい役員候補者案が提案され、欠員の会計1名の補充を役員会に一任する事を含めて、承認されました。そして平成22年度の活動計画案の趣旨説明が各委員長から行われました。広報委員会では新たに『キーワード読書会』の隔月開催、また友の会の活動予定や図書館のイベントを含めた情報発信として定期的に葉書による『たんしん』を発行することが提案。22年度予算も含め承認され、すべての議事は終了しました。

『たんしん』を発行することが提案。22年度予算も含め承認され、すべての議事は終了しました。

「今後も一緒に地域に根ざした活動を」と中央図書館新館長

来賓として新しく就任された梅田中央図書館長から「開館から半年経過したが、来館者も70万人にも迫る勢いである。また現在、立石、新宿、奥戸の3館の改築・新設に取り組んでいる。今年は“国民読書年”であり、今後も友の会と一緒に、本を仲立ちとして地区との協力関係を強化し、子どもや障害のある方を含め、新しい来館者が増えるような取り組みを続けていきたい」との挨拶と激励を受けました。

「ミニ講演会」、分野別の交流会で熱心な意見交換も

その後、高橋副会長によるミニ講演会、各委員会に分かれた交流会が開かれ、熱心な話し合いが続けられ、予定時間をオーバーして総会は終了しました。なお総会終了後、ただちに会計1名の補充が行われ、すべての役員が決定されました。

新役員体制

会 長	朝野 熙彦
副 会 長	鶴岡 幸子 高橋 久郎
会 計	林 ナオミ 栗竹 敬子
会 計 監 査	中田実枝子 村上 祥子
総 務 委 員 長	福部 國弘
広 報 委 員 長	中里 隆二
イ ベ ン ト 委 員 長	川島 勉
スクラップブック 「葛飾ニュース情報」 作成委員長	鶴木 輝一
地域・地区図書館 応援委員長	清水 一夫
ナイトシアター 委員長	加藤 和也
児童・YAサービ ス 応援委員長	斎藤 美代



写真は梅田中央図書館長

新設された委員会の活動内容や計画

中央図書館開館一周年記念イベントの開催や区内図書館への協力支援など、豊富な内容

総会で承認された新たな 5 つの委員会の主な活動計画および内容（日時は未定）は以下の通りです。会員の皆様の参加を期待しています。

□ イベント委員会（講演会・学習会・見学会などのイベントの企画・運営など）

- ①中央図書館開館 1 周年記念〈友の会スリーデイ・フェスティバル（仮）
- ②図書館利用ステップアップ講座（学習会）
- ③立石図書館リニューアル開館記念準備協力
- ④「友の会ブックランド」（中央図書館のかつしかコーナー書架の活用）
- ⑤見学会や「ビジネス書を楽しむ会」など



□ スクラップブック「葛飾ニュース情報」作成委員会—すでに昨年度から活動—

- ①毎月 1 回の作成と「友の会が選んだ注目記事」パネルの更新
- ②興味深い新聞記事の追跡調査や確認実施
- ③地域ニュース関連の報告会や講演会の実施など



□ 地域・地区図書館応援委員会（中央図書館以外の区内図書館への協力活動）

アンケートなどで利用頻度の高い図書館を選び、グループで中央図書館を通して各図書館と「友の会」に期待されていることや、ボランティアとして協力・支援できる活動を話し合い、利用者との交流もあわせて行っていく。

□ ナイトシアター委員会 —すでに「友の会」発足時から活動—

- ①今年度からは中央図書館との共催で、開催日時を毎月第 2 土曜日の午後 6 時半からに固定する
- ②図書館に購入してもらいたいDVDのアンケートを年 1 回実施する

□ 児童・YAサービス応援委員会（区内ボランティア団体や公共図書館、区の生涯学習課などと連携しながら活動）

- ①学校図書館のボランティアのサポート
- ②児童書・YA読書会や「調べ学習」講演会の開催などのイベントの企画・運営など

≡ 講演会

葛飾図書館友の会副会長 高橋久郎

「寺山修司の思い出——処女戯曲『忘れた領分』に関わって」（講演要旨）

いつも心にかかっていた寺山のこと



訊かれると「僕の職業は寺山修司」と答えていた。その有名なせりふを表題にした『職業寺山修司』（北川登園著）に処女戯曲の記述があって、あれは夢ではなかったと思い出した。その証拠が 50 年を経て古びた台本である。昭和 30 年（1955 年）の 5 月、詩劇団「ガラスの髭」として早稲田詩人会主催の第 6 回「5 月の詩祭^{しまつり}」なるイベントに参加することになり、ネフローゼで入院中の寺山が病床で戯曲を書き、僕

が台本をガリ版印刷し、黒人役で出演した（1999 年、角川春樹事務所刊『寺山修司の忘れもの』に収録）。

登場人物 4 名の『忘れた領分 ディッドル・ディッドル・ダム・ダム』の筋は、戦場の中の小屋に黒人が寝ている場面から始まる。花売り娘アユとサクソ吹き登場、続いて入ってきた青年鳥夫が先の二人が食べ物を探しに出ている間にアユのピストルで自殺してしまう。戻って死体を見つけた二人も外へ出て行き、銃声が…。残った黒人が伸びをして終わる。

友人の詩人の紹介で寺山と知り合った。初対面で「高橋さん、黒人役にぴったりだ」と。彼は発想や言葉が鉄砲のように出てきた。我々（僕や寺山）昭和 10 年生れは戦争体験の真ん中という非常に特殊な体験（価値観の反転）をした世代。突如噴出する負のエネルギーが芸術に結びつければ作品へと昇華されるだろう。47 歳で早世した寺山が今生きていれば、北野武に負けない名声の、世界的な演出家になっていたに違いない。

さまざまな活動で図書館を支えて15年



Friends of ICHIKAWA LIBRARY
市川図書館友の会

“自慢できる図書館”を目指す

1月の墨田図書館友の会の来訪に続き、3月17日（水）午後由市川図書館友の会の皆さんが中央図書館の見学と当会との交流に来館しました。市川図書館友の会は中央図書館の設計段階から交流を開始し、当会も準備段階から発足まで様々な提言や助言などで大変お世話になっている会です。

14名の会員の方々が中央図書館を職員の方のご案内で約1時間にわたって見学されました。立地条件の良さ、明るい館内、幅の広い書棚、機械に不慣れな人でも利用できる自動貸出・返却や個人席・閲覧室の予約などのシステム、充実した児童室の設備に称賛の声が多く出されました。また幼児用のかわいいトイレには笑いが起きました。

見学の後、当会から5名が出席して交流会をもちました。市川図書館友の会はすでに15年の歴史があり、総務、広報、そしてインフォメーションの分野に分かれ、会員数は毎年120名。当会と大きく違うのは、このインフォメーション委員会が書棚や閉架書庫の整理、書籍の修復を始め、利用者からの本の照会を中心とした“レファレンス”など館内でのボランティア活動を行っていることでした。また会員には全員に、会報や読書会などのお知らせを郵送していること、図書館内に「友の会コーナー」があることなど説明されました。

市川図書館友の会は“自慢できる図書館”、図書館と一緒に生涯学習活動が続けることを目指す、そのためには活動できる人数の存在が欠かせないとも話され、今後も相互交流を続けることを約束して1時間以上に及んだ交流会を終えました。

区内の図書館探訪記 第6回

広報委員会は区内の図書館を訪問・取材しています。
おたずねした新宿図書センターさん、ご協力ありがとうございました。

■ 新宿図書センター

現在は中央図書館の“分室”、今後リニューアルを予定



中央図書館開館にともない、葛飾図書館から名前を変え、半年経過した新宿図書センターを久しぶりに訪れ、新任の女性職員にお話を伺った。職員1名と非常勤8名で対応しているこの「センター」は中央図書館の“分室”として位置付けて、地区図書館と同様の運営を行っている。以前は規模の大きな閲覧室や会議室などがあったが、今は1階のみを図書館として運営している。入り口右手に小さな雑誌コーナーがある。以前作業室や事務室であったところは、今後図書館部分の閲覧スペースと区内の学校図書館への本の配送の拠点となる流通センターとして整備する予定とのこと。区内の図書館では唯一ある地下の食堂は現在も営業。また4階はテクノプラザ改修中の仮事務所として、9月まで区役所の産業経済課の一部などが入り、3階の会議室の一部は従来通りIT講座などで利用されている。

蔵書数は一般書1万5千、児童書は2万冊。検索機は2台使用できる。児童室のスペースも“絵本を読むはだしコーナー”も今までと同じ。『ほんのこ』という図書館だよりを発行し、毎週土曜日には非常勤職員が中心となって、幼児や子供向けの「絵本の時間」「おひざにだっこのおはなし会」「おはなし会」と順次開催し、親子づれに好評。

2階にあった一般書コーナーは昔の児童室の隣に置かれ、これまでの区内一の規模のイメージからして、とてもとてもささやか(?)だが、予約・貸出で利用する人が多いという。しかし今年度中に改修工事の予定もある。平日の午前中に訪問したためか、来館者もボチボチ。静かな館内だった。いつもは溢れるような駐輪場も、ちょっと寂しげ。しかし、新しく生まれ変わるというこの「センター」に期待したいし、そのときにはまた取材したい。

(取材/中里)

昭和17年8月1日第十刷発行、化粧箱入りのこの本は僕のバイブル聖書です。60年間、どんなときにも手放さずに持っていました。

中学3年の春、新任教師のご自宅を友人と訪問したとき、たくさんの蔵書の中で見つけ、中味がそれまでの童話集とまったくちがっているのに驚き、お借りしたものです。帰宅後、夢中になって読みすすめるうちにどうしても手元に残したくなり、懇願して譲り受けた一冊です。情熱的な授業で僕らを魅了し、ドイツ歌曲が得意の若い英語の先生でした。

この本を手「春と修羅」を声高に朗読しながら多摩川の土手を逍遥したり、河原に寝そべって揚げひばりの声をききながら「グスコブドリの傳記」を涙しながら何べんも読み返したりしました。旧仮名遣い、旧漢字には格調というものがありましたから。

箱はぼろぼろになり、ぜんたいが褐色になりましたが、30年前に掛けた東横百貨店の包装紙がカバーとしてまだかかっています。

この本には「作者・序」として、有名な「イーハトーヴォ宣言」が載せられています。これは賢治が若くして亡くなる3年前に出版された童話集『注文の多い料理店』の広告文であったことを編者が披露していますが、これまでの賢治のしごとを広範に網羅したため、紙不足の中600頁という大冊になった、戦時色の濃いざら紙のどっしりした書籍です。

筑摩の最新版全集をはじめ各種の賢治評論、研究書など100冊ほど賢治関係の本を蓄積し、賢治を考える僕自身の1冊を著わしたかったのですが、人生と家の流転をくり返すうちに持ちきれなくなり、この1冊を遺してすべて処分してしまいました。残念です。しかしこの1冊があれば、僕の心の中の『貝の火』はいつまでも消えないでせう。



(たかはし・ひさお 葛飾図書館友の会副会長)

「葛飾図書館友の会」で一緒に活動してみませんか！

『友の会』は多くの会員によって活動しています。図書館を利用されている方、活動趣旨に賛同される方々、是非ご入会いただいて、あなたの図書館に関わるいろいろなアイデアを少しずつ実現してみませんか？

新たに毎月第3土曜日の午後1時から4時まで中央図書館内で、また従来通り友の会開催イベント時にも直接の入会受付を行うことになりましたので、是非ご利用ください。年会費は一般会員は1,000円、賛助会員は2,000円です。上記の方法が利用できない場合、入会希望者は中央図書館に入会届をご提出の上、年会費を下記の口座に納入してください。図書館での年会費の直接納入はできません。「通信欄」に一般あるいは賛助会員かを明記の上、22年度年会費とご記入下さい。振替手数料は銀行窓口では120円、ATMからでは80円です。恐れ入りますが、ご負担をお願いいたします。

ゆうちょ銀行	口座番号	00100-7-392065
	口座名称	葛飾図書館友の会

●問い合わせ・連絡先 中央図書館担当者（玉川さん、吉村さん、清水さん） Tel 03-3607-9201

広報委員会は「たんしん」第一号を五月十日に発行しました。

(栗竹広報委員)

本を読み始めると、のめり込む癖がある。納得のいかない結末になると、自分なりにいろいろと想定し、夢にまで見てうなされる。だからホラー小説の類は怖くて読めない▼中学生の頃、近所の貸本屋で、当時すごい人気の漫画本を片端から借りて読んだ。小遣いのほとんどを注ぎ込み親に叱られ心配もかけたが、今のアニメとはちよつと異なる当時の漫画から人生の何たるかを学んだような気がする▼夢を抱いて就職し結婚したある日、ミステリー本に出会い夢中になった。それからの人生の紆余曲折、事がある度ジャンルは変わるが、今は子供と一緒に図書館を利用し好きな雑貨の本を読み、人情溢れる時代小説にのめり込んでいる。漫画から始まる私の読書歴、平凡ではあるが面白く可笑しく、これが読書の醍醐味と思うことしきりである。

色えんぴつ